

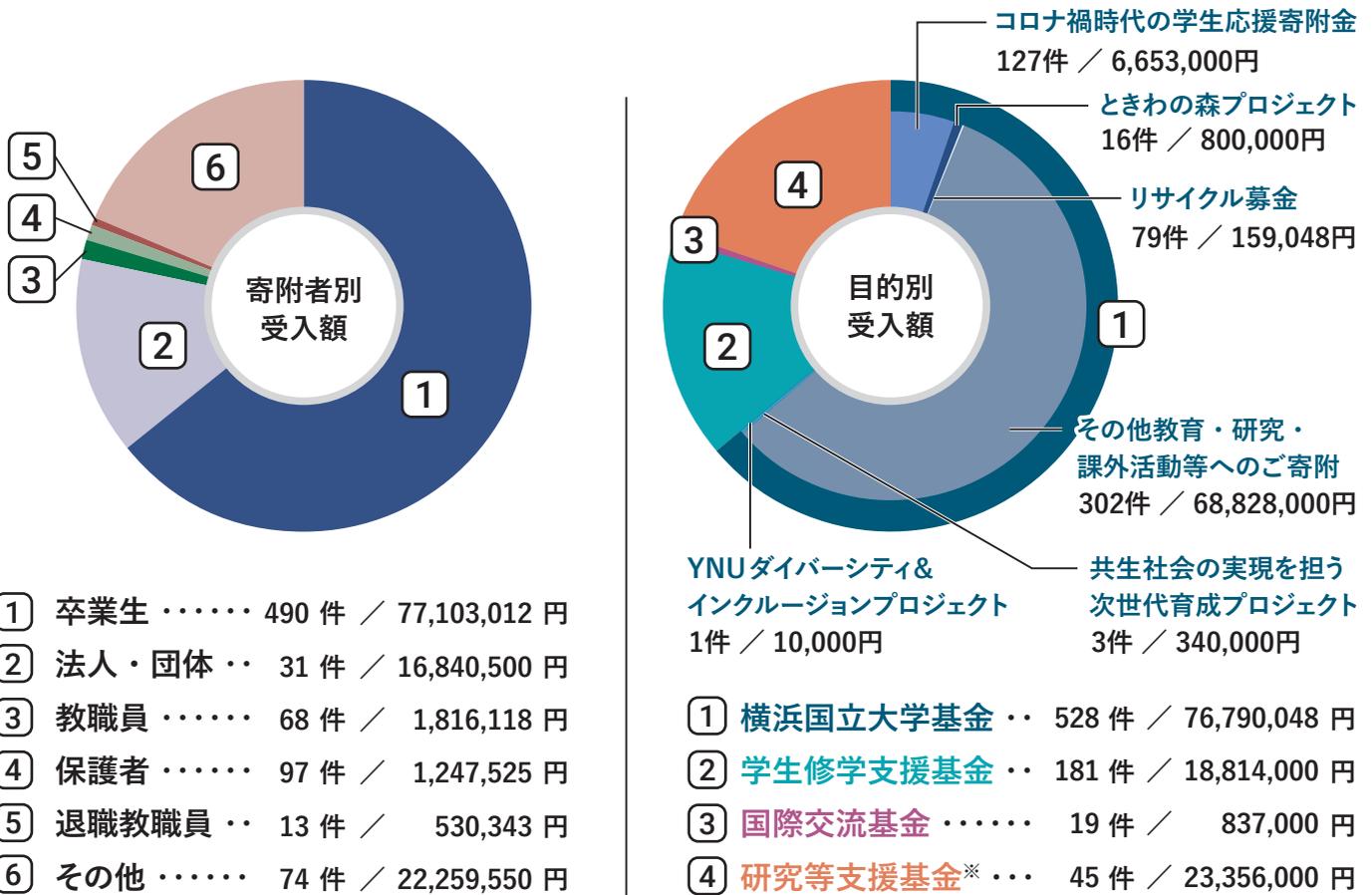
横浜国立
大学基金
2022年度
活動報告書

ご寄附受入額

横浜国立大学基金にあたたかなご支援を賜りまして、心より感謝申し上げます。
皆さまから賜りましたご寄附は学生支援をはじめとする様々な事業にて有効に活用させていただいております。

寄附受入件数 **773** 件 / 寄附受入総額 **119,797,048** 円

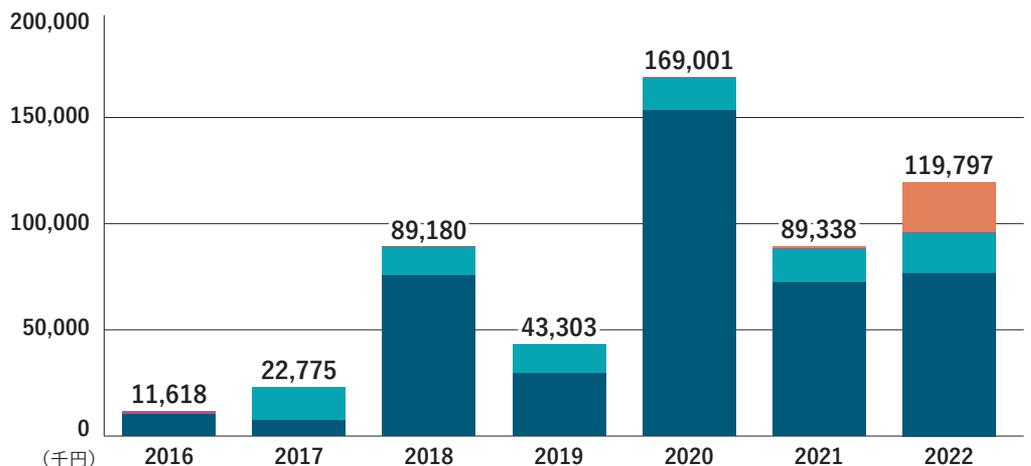
※2022年4月1日～2023年3月31日



※2021年度から募集を開始いたしました。

寄附受入額の推移 (年度別)

- 横浜国立大学基金
- 学生修学支援基金
- 国際交流基金
- 研究等支援基金



支出合計

ご寄附を活用させていただきました事業の一部をご紹介します。

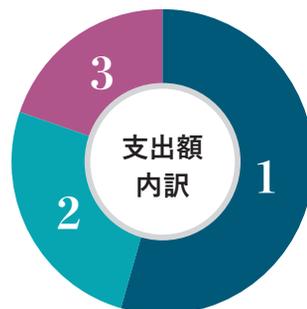
70,687,592円

※2022年4月1日～2023年3月31日

1 横浜国立大学基金
38,539,335円

2 学生修学支援基金
18,273,415円

3 国際交流基金
13,874,842円



1 横浜国立大学基金

コロナ禍時代の学生応援事業

緊急学生支援事業に引き続き、コロナ禍の学生に寄り添った支援として、以下の事業に活用させていただきました。

□ 日本に入国した際に必要となる
自主隔離期間の宿泊代一部支援

支援数 _____
76名 計 3,687,600円

□ 新型コロナウイルス陽性者
(自宅療養者) への食糧支援

支援数 _____
141セット 計 366,090円

□ 大学食堂における『学生応援
300円定食・丼セット』の提供

支援数 _____
**360食 × 21日分
計 1,890,000円**



査読付国際ジャーナル 論文投稿支援事業

研究成果の国際的発信力を一層高め、また本学の研究力強化につながるために、影響度が高い学術雑誌への論文投稿費用の一部補助として活用させていただきました。

支援数 _____
27件 計 6,501,074円



2 学生修学支援基金

経済的な理由により修学を諦めてしまう学生を出さないため、意欲と能力のある学生がより勉学・研究に集中し、安心して学生生活を送ることができるように、返済を要しない給付型の奨学金として活用させていただきました。

YNU大澤奨学金

支援数 _____
16名 × 600,000円

YNU竹井准子記念奨学金

支援数 _____
8名 × 600,000円

八幡ねじ・鈴木建吾奨学金

支援数 _____
5名 × 600,000円

新入生スタートアップ支援金

支援数 _____
8名 × 150,000円
(入学時に必要なPC購入等の支援)

3 国際交流基金

学生や教員の海外派遣及び外国人留学生への援助や外国人研究者等の招へい、国際交流の推進事業、国際的視点を持って活躍できる人材の育成支援等に活用させていただきました。

交換留学派遣生奨学金

支援数 _____
7名 × 100,000円

国際会議等出席・海外調査等奨励金

支援数 _____
19名 計 2,790,000円

アカデミックキャリア支援 グローバル大学院プログラム

支援数 _____
5名 計 3,100,000円



感謝のメッセージ

皆さまからのご寄附を通して支援を

MESSAGE • YNU大澤奨学金 奨学生 | 経済学部 / 2021年度入学

農業経済学の実践的な学びで、様々なプロジェクトに挑戦

私は母子家庭の貧しい家で育ち、大学受験の参考書を購入するために、高校時代からアルバイトに勤しんでいました。入学後も、学費や外部資格試験料、交通費等のためにアルバイトをしなければならないと暗い気持ちになっていました。しかし、奨学生に採用されたことで、アルバイトの時間をこれまでの半分以下にすることができ、現在は様々な活動に時間を使うことができています。現在、最も熱心に取り組ん

でいることは、農業経済学の実践的な学びです。今年の春には、民間企業や地方自治体と共に、福島県産のお米の米飯回数増加を目指すプロジェクトに取り組み、また、古内茶という茨木県のお茶の輸出量増加を目指すプロジェクトを実施しました。このように様々な体験ができたのは、YNU大澤奨学金のお陰です。ご支援をいただきました大澤様に、深く感謝申し上げます。



MESSAGE • YNU竹井准子記念奨学金 奨学生 | 教育学部 / 2020年度入学

子どもに表現活動の楽しさや喜びを伝えられる教師を目指したい

ご支援のお陰で、教育実習やボランティア活動、制作活動などに全力を注ぎ、充実した大学生を送ることができています。4年生になり、教員採用試験へ向けた勉強と同時に卒業制作と向き合う日々を過ごしています。卒業制作では、木を使った彫刻を通して自分の表現を模索しています。緑に囲まれたキャンパスの中で仲間と制作に励む時間は、私にとってかけがえのない時間です。大学でのこの経験を

活かし、子どもに表現活動の楽しさや喜びを伝えられる教師を目指したいです。また、教師になってからも自身の表現を模索し続けていきたいです。このような充実した大学生を送ることができたのは、4年間ずっと支えてくださった竹井准子様及びご遺族様のお陰です。感謝の気持ちを胸に、残りの学生生活も勉学に励み成長し続けていきたいです。4年間の大学生生活を支えていただき心より感謝申し上げます。

MESSAGE • 八幡ねじ・鈴木建吾奨学金 奨学生 | 理工学府 / 2022年度入学

ロボット工学を学び、IT技術でより便利な社会を実現したい

本奨学金のお陰で、学業と研究活動に集中して取り組むことができ、奨学生としていっそう身の引き締まる思いで精進しています。私は現在、ロボット工学に関する研究を行っており、具体的には、ロボットハンドで物体を囲い込むことで物体の形状を認識する研究を行っています。ロボットでできることを増やして、物体認識手法の多様性を広げたいと思い、研究活動に励んでいます。将来は、IT技術を用いてより便利な社会を実現したいと考えており、システムエンジニアとして働きたいと考えています。今後は、残りの学生生活を楽しみながら精進するとともに、自己啓発に取り組み、社会に出て

活躍できる人になりたいです。最後に、ご支援いただいております鈴木建吾様、八幡ねじ様に心よりお礼申し上げます。



受けた学生と研究者のチャレンジを、感謝のメッセージと共にお伝えします。

MESSAGE • 交換留学派遣生 | 経営学部 / 2021年度入学

留学経験を活かして国際社会で活躍したい

この度は、ご支援いただきありがとうございます。皆さまのご支援のお陰で、留学生生活を無事に終えることができました。現地では国際交流を中心に、語学勉強、クラブ活動、課外実習など様々な経験をすることができました。その中で、言語の壁を越えてできた友人との思い出は、かけがえのないものとして心に残っています。この経験は、私の将来の人生に大きな影響を与えると

もに、自身の成長につながったと感じています。この留学を通して学んだ多様な価値観や考え方を活かして、この先国際的に活躍できる社会の一員となるように、また、ご支援いただいた皆さまに恥じぬような人間となれるように精進します。充実した留学生活を送り、貴重な体験をすることができたのは、皆さまからのご支援のお陰です。誠にありがとうございました。



INTERVIEW

研究者インタビュー

田中 秀毅

TANAKA Hideki

教育学部 教授

国際交流基金を活用した事業について教えてください

教職員海外研修制度により、2022年10月から翌年3月までの5カ月間、米国スタンフォード大学で研修させていただきました。コロナ禍により延期を余儀なくされましたが、3年目にして渡航できたことに感謝しております。スタンフォードは全米でもとくに物価が高い地域であるため、国際交流基金の補助により大変助かりました。温かいご支援に感謝申し上げます。

研究テーマについて教えてください

私の研究テーマは英語と日本語の名詞修飾表現の比較なので、東アジア研究センターに客員研究員として所属し、英語と異なる日本語の特徴を研究されている松本善子教授に指導を受けました。英語と日本語の決定的な違いは、英語では主語や目的語といった文法機能が修飾関係のかなめとなるのに対して、日本語では出来事や状況に関わる個体（人・物）であれば文脈の支えにより修飾関係が成立することです。例えば、「夕食にピザを食べた残り」では「残り」が修飾されていますが、食べたピザを指していないのに修飾関係が成立します（「食べたピザ」であればthe pizza I ate for dinnerのように英語でも表せます）。

研修先ではどのような活動をされましたか？

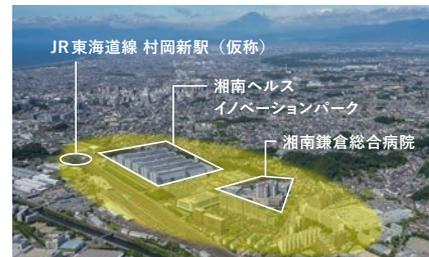
言語の意味や談話機能に関する授業をコンピューター・サイエンス専攻の学部生や大学院生とともに聴講しました。最近話題の生成AIに未知の語句の意味解釈をさせ、人間のそれと比較するといった興味深い考察も拝聴しました。研修の終盤には、自分の研究成果を東アジア言語研究ワークショップで発表し、所属教員や院生から有益なコメントを沢山いただきました。また、授業で知り合った学部生から日本語会話サークルに招待してもらい、日本語と英語の違いについて議論しました。紙幅の都合で全ては書ききれませんが、スタンフォード大学での研修はとても充実した経験でした。このような貴重な機会をいただいたことへの感謝の気持ちを忘れずに、本研修で得た経験を今後の研究・教育にできる限り生かせるように努めてまいります。



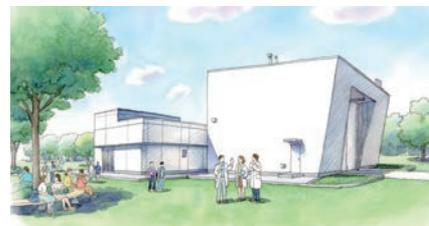
横浜国立大学 創基150周年・ 開学75周年記念募金事業



本学は、明治7年に神奈川県内に設置された小学校教員養成所を起源とし、令和6年に創基150周年、開学75周年を迎えます。この重要な節目を迎えるにあたり、「横浜国立大学 創基150周年・開学75周年基金」を設立し、新たなまちづくりと未来創生に貢献する“YNU新湘南共創キャンパス”創設事業、日本初の試みであり、本学及び国内他機関等の多様な知を結集した文理融合による台風科学技術研究センター支援事業、世界で活躍する優れた人材の養成と体育施設の一体的改修による学生支援事業、併せて、100周年を迎える社会科学系（経済・経営・法律）、150周年を迎える教育学部の記念事業を実施することにいたしました。創基150周年を次の世紀に向けた発展の起点とし、「知の統合型大学として」世界水準の研究大学を目指し、地域と世界の未来を創る為に、横浜国立大学の決意にご賛同いただき、ご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



YNU新湘南共創キャンパス
構想エリアイメージ



台風科学技術研究センター支援事業
「雲生成チャンバー格納実験建屋イメージ」

事業概要

募集期間

2023年4月～2028年3月31日

目標額

総額5億円

対象プロジェクト

- ① 横浜国立大学 創基150周年・開学75周年記念事業
(YNU新湘南共創キャンパスの創設・台風科学技術研究センター支援・学生支援)
- ② 教育学部創基150周年記念事業
- ③ 社会科学系(経済・経営・法律)創立100周年記念事業

募集金額

個人：1口1万円 | 団体・法人：1口10万円

※以上の金額にてご寄附のお願いをさせていただいておりますが、金額に関わらず、ありがたくご寄附を頂戴いたします。

ご寄附の方法

横浜国立大学基金WEBサイトからクレジットカードにてご寄附いただけます。



スマートフォンからお申し込みいただけます。
払込書でのご寄附をご希望の方は大学基金WEBサイトから、
もしくは右記連絡先までお問合せください。

ご寄附に関するお問い合わせ

横浜国立大学 卒業生・基金室担当

E-mail：ynu.kikin@ynu.ac.jp

TEL：045-339-4443（月～金 9:00～17:00）

ご寄附の仕方



クレジットカード



インターネットからクレジットカード決済によりご寄附いただけます。

継続的なご寄附（毎月・年2回・年1回の自動引き落とし）もお申込みいただけます。

※12月16日以降にお申込みいただいたクレジットカードによるご寄附の領収書は、翌年の日付で発行されます。この場合、寄附金控除も翌年の対象となりますのであらかじめご了承ください。



金融機関

振り込み

専用の払込取扱票に必要事項をご記入の上、

郵便局または横浜銀行・三菱UFJ銀行の窓口でお振り込みください。

払込取扱票のお取り寄せ、ATM・ネットバンキングからのご寄附お申込みにつきましては、大学基金WEBサイト（寄附お申込み入力画面の「決済情報入力」より選択）からお手続きいただけます。



株式・土地など

現金以外にも、個人の方からの「土地、建物等の不動産」、「株式等の有価証券」など現物資産によるご寄附も受け付けております。

本学では横浜国立大学基金の特定資金として、文部科学大臣の証明を受けた「横浜国立大学現物資産活用基金」を設置しており、ご寄附いただいた資産は、当該基金において有効に活用させていただきます。現物資産によるご寄附をご検討の方は、お気軽にご相談ください。



リサイクル募金



本・DVD・ゲーム・書き損じはがき等のリサイクル品を活用することで、横浜国立大学の教育・研究を支援するプロジェクトです。



≡ 遺贈・相続によるご寄附 ≡

ご自分が築き上げた財産の一部を横浜国立大学に寄附することで、世界に貢献する高い志を持った学生や若手研究者の育成を支援し、社会に貢献することができます。

お話しを伺いながらご意志に沿った支援内容のご相談、提携銀行のご紹介をさせていただきますので、ご不明な点や気になる事などがございましたら是非お気軽にご相談ください。



本学と協定を結んでいる銀行・信託銀行 | 三井住友信託銀行/三菱UFJ信託銀行/りそな銀行



税制上の優遇措置

個人の皆さま

所得税の控除

横浜国立大学基金へのご寄附は、**所得控除**の対象となります。
また、本学の「**学生修学支援基金**」及び「**研究等支援基金**」に対するご寄附は、確定申告の際に**所得控除**または**税額控除**のいずれかをお選びいただけます。

所得控除

寄附金額から2,000円を差し引いた額が総所得から控除されます。

税額控除

寄附金額から2,000円を差し引いた額の40%が税額から控除されます。

住民税の控除

お住まいの都道府県・市町村によっては、個人住民税の控除が受けられます。
詳しくは、お住まいの都道府県・市町村にお問い合わせ願います。

法人・団体の皆さま

法人税法第37条第3項第2号により、寄附金の全額を損金算入することができます。



ご寄附いただいた方への謝意

横浜国立大学基金へご寄附いただいた皆さまに感謝の気持ちを込め、ご寄附いただいた金額に応じて様々な特典を用意しております。

創基150周年・開学75周年 記念銘板



高額寄附者銘板



創基150周年記念限定返礼品一例



| 創基150周年記念限定 | 個人 | 法人・団体 |
|--|-----------------|-----------|
| 創基150周年・開学75周年 記念銘板 (ご寄附の累計金額) ^{※1 ※2} | 20万円以上 | 100万円以上 |
| オリジナル返礼品 | 1万円以上 | - |
| 高額寄附者銘板 ^{※1 ※2} | 個人 | 法人・団体 |
| 銘板(ゴールド)の掲示 | 1億円以上 | 1億円以上 |
| 銘板(シルバー)の掲示 | 1,000万円以上 | 5,000万円以上 |
| 銘板(グレー)の掲示 | 100万円以上 | 1,000万円以上 |
| その他の謝意 | 個人 | 法人・団体 |
| 記念楯の贈呈 ^{※1 ※2} | 500万円以上 | 1,000万円以上 |
| 感謝状の贈呈 ^{※1} | 30万円以上 | 100万円以上 |
| 附属図書館利用カード | 10万円以上 | - |
| 御礼状・WEBご芳名録への掲載 ^{※3} | ご寄附をいただいた全ての皆さま | |

※1 原則として一個人または、一法人・団体につき1回までといたします。

※2 各種銘板及び記念楯の贈呈につきましては、
本学へのご寄附累計金額が該当金額に達し次第ご案内いたします。

※3 ご芳名の公表を希望されない方につきましては、掲載いたしません。

皆さまお一人お一人のご寄附が次世代の学びと挑戦を支え、地域と世界の未来をつくります。
引き続きあたたかなご支援を、よろしくお願いいたします。

横浜国立大学 卒業生・基金担当

〒240-8501 神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-1

E-mail : ynu.kikin@ynu.ac.jp / TEL : 045-339-4443 / FAX : 045-339-3034

横浜国立大学基金



<https://kikin.ynu.jp/>

